

巻頭言

羊の年の大学改革

歯学部長 松口徹也

平素より鹿児島大学歯学部の活動にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。私こと2014年4月より、口腔生化学講座の教授職に加えて歯学部長の責務を兼任させていただいております。このたび鹿児島大学歯学部紀要第35巻を皆様にお届けできることを、歯学部長として喜ばしく思います。

今年2015年は羊の年になります。羊の歯に関する話を1つさせてください。成長した羊には32本の歯があり、うち8本が門歯になります。門歯は4才までに生え揃い、それ以降は失われても補われることはありません。羊は上手く飼えば20年位生きますが、放牧した羊は4才を過ぎると次第に数が減っていくそうです。羊の様な反芻動物にとって、しっかり噛めなくなることは命取りなのです。人の世界でも高齢者医療で噛む力の大切さが叫ばれるようになってきましたが、改めて歯の大切さを思い出させる話です。

2015年はまた、鹿児島大学を始めとする国立大学法人にとってとても重要な年になります。4月1日から学校教育法と国立大学法人法の改定により学長の権限が強化され（ガバナンス改革）、学長を中心とした大学改革が本格化することになります。最近種々のメディアで取り上げられることも多い大学改革ですが、国が国立大学法人に求める変化とはどのようなものかご存じですか？その内容はもちろん多岐に渡りますが、個人的に考える2つのキーワードは、「ミッション（使命）の再定義」と「グローバル（国際）化」です。学部長は学部の代表者として大学全体の運営に関わることが求められ、歯学部の会議のみでなく大学本部での会議にも頻回に呼び出されることも多くなりますが、この2つは耳にタコができる位に何度も聞かされている言葉です。

「ミッションの再定義」とは、現況と社会の要望に合わせて、各々の大学の使命についてしっかり考え直してみようとするものです。鹿児島大学のような地方

大学の場合は、所謂「ミニ東大」を目指すのではなく、それぞれの地域に根付き、多かれ少なかれ地域の核となることを要求されます。鹿児島大学歯学部の場合も、最近行ったミッションの再定義において、離島を含めた南九州地域の歯科医療を担う旨を強調しています。地域重視のミッション以外にも、他の大学にない特徴的な研究や教育を強化していくことも重要なミッションの1つです。少し前の流行歌の文句を借りれば、「ナンバーワンにならなくても、オンリーワンを目指せ。」とでも言えるでしょう。

2つめのキーワードである大学の「グローバル化」は昔からよく言われてきたことで、何を今さらと思われるかもしれませんが、国が現在各大学法人に求めているのは、「開かれた大学にしましょう。」とか、「研究の国際協力を推進します。」というような聞こえの良い抽象的な掛け声ではなく、厳密な“hard evidence”（動かぬ証拠）です。例えば単に「海外からの留学生を増やします。」と言うのではだめで、「過去3年間で留学生が〇〇人増え、来年までにさらに〇〇人増やします。」などといった具体的なものである必要があります。他にも、「各部署における外国人教員の割合」とか、「職員のTOEIC（国際的英語能力検定試験）スコア」など、具体的な数字の目標を掲げ、それを期限までに確実に達成することが求められます。

その性急さの是非はとにかくとして、求められている改革の方向は真つ当なものですし、全国の国立大学法人はその方向に向かっています。立ち遅れてしまった大学は、国からの十分なサポートを得られなくなる可能性が高いからです。このような周囲の潮流に乗り遅れないよう、いやできればそれに先んじるように鹿児島大学歯学部も変わっていかなければいけません。もちろん、私達の学部には素晴らしい伝統と守らなければならない大切な個性もあり、それを全て変えようというわけではありません。しかし、伝統に固執するあまり、必要な変革の機を失ってしまえば、結果とし

て「座して死を待つ」ことになりかねません。現在はそんな時代なのです。

巻頭言の性格上詳細な具体的記述は控えさせていただきますが、私共歯学部では現在、英語授業の導入を含めた大胆な授業カリキュラム改革や、北米・東南アジア等の歯科大学との学部間学術協定の新たな締結と学部生レベルでの国際交流の開始、学生離島実習の与論・奄美・種子島3島への拡充など、多くの新たな試みを既に開始しています。これら新たな潮流の幾つかについては、この歯学部紀要の記事（私自身のインタビュー記事も掲載されるそうです）を通して知って頂けると思います。

最後になりますが、ご縁あって学部長に選出していただいたわけですので、他の関係者の皆様に負けない熱意をもって今後の学部業務に向き合っていく所存です。干支の羊にあてられる「未」の字は、「未完成で成長途上にあること」を意味します。今後とも、より良い学部への成長のために関係者の皆様のご支援とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。